



成長 2019年1・2・3月 第164号

教説執筆者
知栄子、長島理子、廣瀬志保、松井由紀恵、明利篤洋
表紙絵
わたなべまな／目次絵 住谷加代／カット

飯野 優 池田めぐみ、伊藤真澄、井本香織、川嶋範子、佐藤摶子、城倉翼、玉井

152 142 132 122 121 110 100 90 80 70 60 50 40 30 29

分級教案

- 単元17 イエスとペテロI ■
目標、カリキュラム表
第1課 (3・10) 水の上を歩く
第2課 (3・17) ペテロの信仰告白
第3課 (3・24) 叱られたペテロ
第4課 (3・31) イエスの変貌

分級教案

■ 単元16 イスラエル王国 ■
目標、カリキュラム表
第1課 (1・6) サムエル
第2課 (1・13) 最初の王サウル
第3課 (1・20) 失敗したサウル
第4課 (1・27) 選ばれたダビデ
第5課 (2・3) ダビデとゴリヤテ
第6課 (2・10) 神にゆだねたダビデ
第7課 (2・17) 罪を犯したダビデ
第8課 (2・24) 知恵を求めたソロモン
第9課 (3・3) ソロモンの神殿建設

もくじ

卷頭言 主の導きは不思議

東義也 1

- 「成長」の使い方
2019年度「成長」カリキュラム表
6

- ◆特集 子どもたちの「ディボーション」を励まそう
12

◆連載 中高生に信仰を伝えるために
16

嶋田 博考

- ◆連載 子どもを育む教会へ——「居場所」の在り方
20

田中 哲 16

- グレード1教案
24

川口 竜太郎 20

- 教課研究
24

川島 祥子 24

- グレード4-5 教案
162

小野 淳子、吉川 直美 174

- ワークシート
176

中台 孝雄

■ 分級教案

- ①**決心日** 1号につき1回設定。生徒の信仰の段階に応じて適切な決心を促す。
 - ②**暗唱聖句** 1課ごとに、主題に沿った聖句。(暗唱聖句 豆カードと対応)
 - ③**復習と適用** 聖書のお話の復習や、生徒個人の生活に適用するための質問。
 - ④**毎日の聖書** その日の聖書テキストの一部か、テーマに沿ったみことばの箇所を掲載。
毎日のディボーションに。(月刊「らみい」掲載の「毎日のみことば」と対応〔グレード3相当〕)
 - ⑤**ワンポイント・アドバイス** 学びに役立つ聖書知識、生徒への配慮など。

学びを深めるために（グレード5） 個人の学びや、グループディスカッションに。

■参考図書、地図

『ティンデル聖書注解シリーズ』、『新聖書注解』、『新聖書講解シリーズ』、『新実用聖書注解』、『ビジュアル聖書百科』、『新聖書辞典』、『カラー新聖書ガイドブック』、『バイブルワールド』、『BIBLE navi』、『バイブルガイド』、『コンサイス聖書歴史地図』
(以上 いのちのことば社)

第15サイクル(2020年4月～2023年3月)

「成長」の使い方

「成長」は、聖書信仰に立つ教会学校教師のための教案誌です。3年間を1サイクルとして、旧新約聖書から重要な箇所を学ぶカリキュラムとなっています。

子どもから大人まで、同じ聖書箇所から同じ主題で学んでいく統一教案を基本としています(グレード1のみ1年ごとの別カリキュラム)。生徒の年齢、理解力、信仰の成長段階に応じて、分級を5つのグレードに分けています。クラスの状況によって適度にアレンジを加えながら、変化に富んだ充実したクラスをつくり上げてください。

■メッセージ準備の流れ（例）

1. 教案を読む前に、まず祈り、繰り返し聖書を読みましょう。

生徒に確信をもって語るために、みことばを自分のものにすることが大切です。必要に応じて、取り上げられている聖書箇所の前後も読みましょう。グレード5の教案は、個人や教師会での学びに役立ちます。

2. 「教課研究」を読みましょう。
聖書箇所の歴史・地理・文化的背景や、全体像（概要）を把握するために役立ちます。
 3. 「分級教案」をヒントに、メッセージを組み立てましょう。
生徒の理解力や状況を考慮し、適切な展開や質問を考えましょう。ご自分のことばで原稿にしておくことをお勧めします。自分のクラス（グレード）以外の教案にも目を通すと、より多くのヒントを得られるでしょう。

■グレードの目安

えい児▶グレード 1

幼児～小学校低学年▶グレード2

小学校高学年▶グレード3

中學～高校▶グレード4

青年 成人▶グレード5

関連教材もご利用ください

- ◎生徒用ワークブック
「工作・パズル」(幼児向け)
「グレード2」(小学校低学年向け)
「グレード3」(小学校高学年向け)
 - ◎「成長」視覚教材
 - ◎暗唱聖句 豆カード

グレード1（えい児科）

1月 「神様の声を聞くサムエル」（＝サムエル3章）

〈主題〉 神のおことばを聞き、従う。

〈暗唱聖句〉「主よ、お話しください。しもべは聞いております」（＝サムエル3・9）

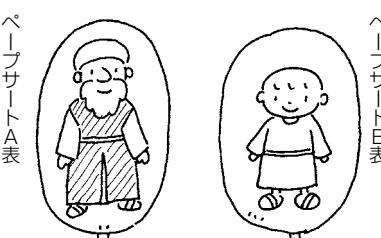
〈歌〉「ちいさいおでてに」三節（＝幼児さんびか）（キリスト教保育連盟）64頁

〈お話〉ペーパーサートを用いて話します。『成長視覚教材』や『たのしいせいしょかみしばい旧約セット』（いのちのことば社）のサムエルの話のイラストを用いてもよいでしょう。

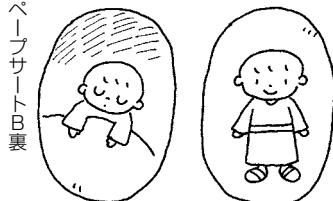
〈お祈り〉「神様。大好きな神様が、私たちにお話ししてくださいとあります。神様のお話をよく聞いて、いつも元気な心でいられますように。神様が喜んでくださることができますように。アーメン」

〈活動〉

●福笑いなど正月らしい遊びをしましよう。大きなフェルトで顔の輪郭とパーツ（まゆげ、目、鼻、口）を作り、目隠しはないで、輪郭にパーツを置いて遊びます。お父さん、お母さん、子どもなど何パターンか作っておきましょう。

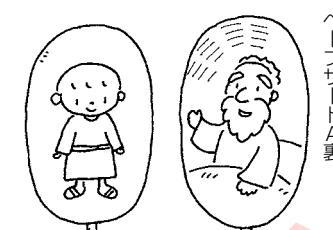


①このおじいさんは、神様のご用をするエリ先生。この男の子は、エリ先生のお手伝いをするサムエルです。サムエルは神様が大好きです。いつも朝早く起きると、神様にお祈りして、夜、眠る前もお祈りしてからお布団に入ります。



⑥「サムエル、サムエル」。また神様に呼ばれて、サムエルはお返事しました。「神様、お話ししてください。ぼくは聞いています」

神様は私たちにもお話をしてくれています。「神様、お話ししてください。聞いています」とお祈りしますね。



③「エリ先生、エリ先生。今、ぼくを呼びましたよね。何かご用ですか」。エリ先生は眠たそうな顔で、「いや、私は呼ばないよ」。

④お布団に戻ると、「サムエル、サムエル」とまた呼ばれました。でも、エリ先生の部屋に行くと、「私は呼んでいないよ」「おかしいなあ」。不思議でたまりません。（②と③のペーパーサートを繰り返し見せる）

⑤「サムエル、サムエル」。3回めに呼ばれた時、エリ先生が言いました。「サムエル、神様がおまえを呼んでいらっしゃるのだ」（②と③のペーパーサートを繰り返し見せる）

1月 「ダビデとゴリヤテ」（＝サムエル17章）

〈主題〉恐れないで、神に信頼する。

〈暗唱聖句〉「神に信頼し 私は何も恐れません」（詩篇56・11）



〈歌〉「まもり」（＝幼児さんびかII）（キリスト教保育連盟）21頁、「こどものいのり（B）」一節（同10頁）、「あそんでいても」（同）18頁

●インフルエンザが流行する季節もあります。「コンコンクシャンのうた」（作詞・香山美子、作曲・湯山昭）などでもうがいの大切さを伝えることもできます。

〈留意事項〉

●サムエルは、神を恐れる敬虔な両親から受け継いだ信仰によって、「主よ、お話しください。しもべは聞いております」とお答えしました。神に聴くという信仰の土台があつてこそ、神のご計画の中で用いられるなどを覚えたいと思います。

サムエル

I サムエル3章
(1章、2:18~26)

主題 神のことばを聞き、伝えた預言者。
「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(I サムエル3・9)

単元の中心的テーマ・主題の背景

古い時代が過ぎ去り、新しい時代が訪れる。それは心浮き立つような期待を私たちに抱かせることであろう。新年はそのような時である。古い自分に決別して、新たな気持ちで歩み始める。これまでが暗い時代であれば、なおさら期待は高まる。

新春から学んでいくサムエル記は、そのような期待感から始まる。偉大な指導者モーセ、ヨシュアの後、イスラエルは全国的な指導者を欠き、周辺の諸民族との争いが途絶えることなく、各部族で地域的に指導した士師(さばきつかさ)たちも、短期間で現れては消え、道徳的な善惡の基準も失われたような状態であった。泥沼に美しく咲いた一輪の花のようなルツ記は、本来の旧約聖書の配列では現在の位置にあるわけではない(とはいえた時代は巻物として保存されていたであろうから、現在のような目次といった概念があるわけではないだろうが)、サムエル記直前の士師記の最後のことばが、「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自ら期待は高まる。

サムエル記では、神の直接的な語りかけを別とすれば、奇跡的なことはほとんど起きない。人々がさまざまな計画を立てて実行する。それがぶつかり合って、困難や悲劇が生じる。分裂があり、不道徳があり、陰謀があり、争いがある。悔い改めがあり、信仰があり、知恵がある。そうした中で、静かに、けれども確実に、神のご計画が進み、やがて来られる救い主の道備えがなされていく。期間としては、BC一〇〇〇年前後の百年あまりの年月になる。今から三千年前の古代イスラエルの歴史をたどっていこう。

テキストの解説

会堂に少年サムエルが祈る絵を飾っている教会もある

だろう(サムエルと知らずに眺めている人も多いかもしれない)。その場面から本単元の学びは始まる。

一 サムエルの誕生(1章、2:18~26)

今回はサムエルの誕生についてはあまり扱わないが、それでも簡単に確認しておこう。

サムエルは、エフライムの山地に住むエルカナの子として生まれた。通常であればエフライム部族に属することになるだろう。けれども、聖書ではサムエルの出身部族は必ずしも明確ではなく、レビ部族の可能性もある(後述)。

そのサムエルは、エルカナの妻の一人ハンナの祈りによって生まれた。家庭環境の複雑さからであるが、ハンナは祈りが応えられた感謝として、サムエル「神の名」神が聞かれる」といった意味か)を祭司エリの家に預け、「主にゆだねられたもの」(1:28)として育つことを願いつつ、自分は時々(年に一度?)訪ねるだけにとどめていた。けれどもハンナの信仰は確実にサムエルに受け継がれた。

二 サムエルへの呼びかけ(3:1~9)

少年サムエルは、そのようにして祭司エリの家で育てられた。サムエルがレビ部族出身である可能性は、神殿で奉仕したレビ人の系図に、「サムエルはエルカナの子」(I歴代6:34)とあることからいえる。これが本課で取り上げるサムエルと同一人物であれば、レビ部族に属していたことになる。その場合は、エフライムは地名として挙げられているだけであろう。いずれにしても、祭司エリの家に預けら

れたサムエルは、後に祭司としての役割も果たしている。

ある晩、少年サムエル(その時の年齢は不明)は自分を呼ぶ声を聞いた。そのたびにサムエルはエリのところに走つていくが、呼んでいたのはエリではなかった。三度めにエリは事態を察した。主なる神がサムエルに呼びかけているのだ、と。

三 神に託された使命(3:10~21)

四度めに自分の名を呼ぶ声を聞いた時、サムエルはエリに指導されたように、「お話し下さい」と答える。

そうして主がサムエルに語りかけた内容は、衝撃的なものだった。エリの子たちはその悪行のゆえに祭司職を継ぐことはない、というのである。翌朝、そのことを聞いたエリはすべてを悟り、主のみこころを受け入れた。

こうしてサムエルは成長し、エリの一家に替わり、全国的な指導者、預言者として活躍することになる。

暗唱聖句の説明

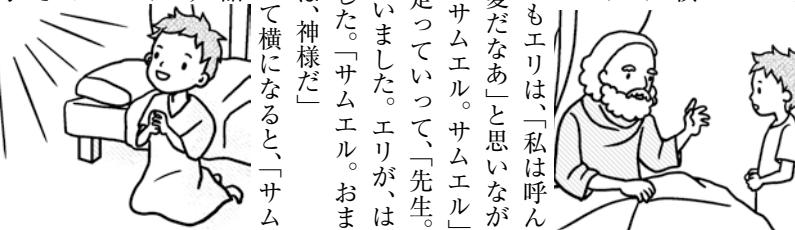
二つの対比がなされている。「主」と「しもべ」、そして「お話し下さい」と「聞いております」。私たちは時にそれを逆転させてしまう。自分が主であり、神が自分のしもべであるかのように思う。そして耳を傾けるよりは、こちらから一方的に願い事を話してしまう。もちろん、祈りは大切であるので私たちが語るのはよいことだが、主なる神が私の主であることを覚え、神の語りかけ(聖書のことば)に聞くことも大切にしよう。

「おやおや」。神様に仕える祭司のエリは不思議に思いました。神様を礼拝する主の宮で、女人のがひざまずいて、ぶつぶつと唇を動かしています。エリは声をかけました。「もしも、さつきから何をしているのですか」「ああ、祭司様。私は、神様に聞いていただきたいことを真剣に祈っています」。この人の名前はハンナ。赤ちゃんが欲しいのになかなか与えられなくて、悲しんでいたのです。「そうでしたか。安心なさい。神様があなたの願いをかなえてくださるでしょう」とエリは言いました。

次の年、ハンナは赤ちゃんを産みました。かわいい男の子で、サムエルと名づけました。サムエルが三歳ぐらいになった時、ハンナはサムエルを部屋に走っていきました。でもエリは、「私は呼んでいないよ」と言います。「変だなあ」と思いながら戻って横になると、また、「サムエル。サムエル」という声。サムエルはまた走っていつて、「先生。お呼びになりましたか」と言いました。エリが、はつと気づいたように言いました。「サムエル。おまえを呼んでいらっしゃるのは、神様だ」

そのあと、サムエルが戻って横になると、「サムエル。サムエル」と神様が語りかけました。サムエルはすぐ起きて、エリに教えられるとおりにお返事しました。

「神様。お話し下さい。私は聞いております」。まだ小さなサムエルでしたが、この時から、神様のおことばを聞いて伝える預言者にな



屋に走っていました。「はい。ぼくはここです。お呼びになりましたか」。するとエリは、「いいや、呼んでいないよ。帰つてお休み」と言いました。部屋に戻つて横になるとまた「サムエル。サムエル」と呼ばされました。サムエルは飛び起きて、エリの部屋に走っていきました。でもエリは、「私は呼んでいないよ」と言います。「変だなあ」と思いながら戻つて横になると、また、「サムエル。サムエル」という声。サムエルはまた走つていつて、「先生。お呼びになりましたか」と言いました。エリが、はつと気づいたように言いました。「サムエル。おまえを呼んでいらっしゃるのは、神様だ」

そのあと、サムエルが戻つて横になると、「サムエル」と神様が語りかけました。サムエルはすぐ起きて、エリに教えられるとおりにお返事しました。

「神様。お話し下さい。私は聞いております」。まだ小さなサムエルでしたが、この時から、神様のおことばを聞いて伝える預言者にな

聖書の復習・適用

① ハンナは、どんなことをお祈りしていましたか。（赤ちゃんが与えられるように）

② 神様はハンナの祈りを聴いてくださいましたか。（祈りに応えて、サムエルを授けてくださいました）

③ サムエルが寝ていた時、どんなことがありますでしたか。（神に名前を呼ばれた）

④ 神様に呼ばれたサムエルは、何とお答えしましたか。（暗唱聖句の「主」しもべなどのことばを説明する）

⑤ 神様は私たちにも語りかけてくださいますよ。どうしたら神様のおことばを聞けるか、知っていますか。（聖書を通して、神が語りかけてくださることを伝える。今年もたくさんのみことばを心に蓄えるように励ます）

〈歌〉「ちいさいこどもの」（「こどもさんびか改訂版」日本キリスト教団出版局）47番、「サムエルさん」（「ふくいん子どもさんびか」（いのちのことば社）27番）

〔制作〕「サムエルのベッド」（下段参照）

今週の祈り
「神様。新しい一年が始まりました。小さな子ども私たちにもお話し下さい。イエス様のお名前によつてお祈りします。アーメン」

ワンポイント・アドバイス

★幼いサムエルに語りかけてくださった神を、子どもたちに近しいお方として印象づけたい。
★新年を迎えて初めてのクラス。今年の目当てなどを話題にして、神の守りと導きを祈ろう。
★〔制作〕「サムエルのベッド」用意する物／大小の紙(各自に1枚ずつ)、人の形に切り抜いた厚紙、暗唱聖句を書いた紙、フェルトペン、のり 作り方／①大きい紙をベッド、小さい紙を毛布に見立て、

一 お母さんハンナ（1章、2・18～26）
「おやおや」。神様に仕える祭司のエリは不思議に思いました。神様を礼拝する主の宮で、女人のがひざまずいて、ぶつぶつと唇を動かしています。エリは声をかけました。「もしも、さつきから何をしているのですか」「ああ、祭司様。私は、神様に聞いていただきたいことを真剣に祈っています」。この人の名前はハンナ。赤ちゃんが欲しいのになかなか与えられなくて、悲しんでいたのです。「そうでしたか。安心なさい。神様があなたの願いをかなえてくださるでしょう」とエリは言いました。

次の年、ハンナは赤ちゃんを産みました。かわいい男の子で、サムエルと名づけました。サムエルが三歳ぐらいになった時、ハンナはサムエルを部屋に走つて横になると、また、「サムエル。サムエル」と呼ばされました。でもエリは、「私は呼んでいないよ」と言います。「変だなあ」と思つて戻つて横になると、また、「サムエル。サムエル」という声。サムエルはまた走つていつて、「先生。お呼びになりましたか」と言いました。エリが、はつと気づいたように言いました。「サムエル。おまえを呼んでいらっしゃるのは、神様だ」

その後、サムエルは毎晩、夜中に寝ていて、神様から何度も呼び出されました。やがて、サムエルは神様の命を受け取ることになりました。神様は、サムエルを預言者として育てました。サムエルは、多くの人々に福音を伝えました。彼の言葉は、人々の心に響き、多くの人が救われました。

二 神様からの呼びかけ（3章）
ある晩のことです。サムエルが寝ていると、「サムエル」と呼ばれました。サムエルは起きて、エリの部屋に走りました。エリのお手伝いをするようになりました。賢いサムエルは、エリから教わることをしつかり覚えました。一年に一度はお母さんが会いに来て、サムエルのために作つた上着を届けてくれました。

色を塗る。②人の形の厚紙にサムエルの顔や洋服を描く。③毛布に暗唱聖句の紙を貼る。④ベッドに寝かせたサムエルに、「サムエル、サムエル」と呼びかけ、ベッドから出して、「主よ、お話し下さい。しもべは聞いております」と言う。

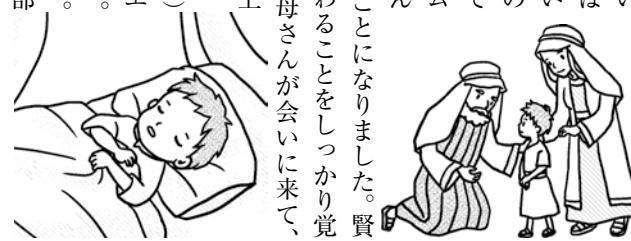
1/6《第1課》 (新年)

サムエル

3章
サムエル3・2:18～26)
(1章)

主題 神のことばを聞き、伝えた預言者。
暗唱聖句 「主よ、お話し下さい。しもべは聞いております」
(サムエル3・9)
目標 神からの語りかけがよくわかるように、みことばに親しむ。

導入から聖書へ——明けましておめでとうございます今日は、神様のお声を聞いた男の子の話です。す。今年も、教会学校で楽しく過ごして、聖書のお話をたくさん聞きましょうね。聖書は神様のおことばですから、聖書のお話をしっかりと聞くと、神様のことばが心に響いてきますよ。「あなたたちのことばが好きですよ」「いつも見守っていますよ」うそね。



1/6《第1課》
(新年)

サムエル

I サムエル1、3章

主題 神のことばを聞き、伝えた預言者。

暗唱聖句 「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(イサムエル3・9)

目標 神のことばである聖書に真剣に向き合う者となる。

導入から聖書へ —— 聞いているように聞いていなかつ

た、という経験はありませんか。ゲームに夢中で、お母さんに呼ばれても気づかなかつたとか、授業中ほかのことを考えていて、先生の話が全然頭に入つていなかつたとか。「しっかり聞く」つて、なかなか難しいことなのかもしれませんね。今年最初の聖書

一 サムエルの誕生（1章）

イスラエルに、ハンナという女の人がありました。結婚して月日がたつのに子どもが生まれず、とてもつらい思いをしていました。ハンナと夫は毎年、シロの町に出かけ、神様を礼拝する主の宮でささげのをしていました。ある時、ハンナはこの主の宮で、泣きながら神様に祈りました。「神様が私に男の子を授けてくださるなら、その子を神様におささげします」と。神様はハンナの祈りに応えてくださいました。翌年ハンナは男の子を産んだのです。ハンナはその子をサムエルと名づけ、大切に育てました。

サムエルが三歳ぐらいになると、ハンナはサムエルをシロの主の宮に連れていき、祭司のエリになりました。「どうか…。サムエルよ、神様がおまえを呼んでいらっしゃるのだ。今度呼ばれたら、このようにお答えしなさい」

三 神様のことばを聞くサムエル（3・10～21）

エリの部屋から戻ったサムエルが横になると、「サムエル、サムエル」と神様がお呼びになりました。サムエルは起き上がり、エリから教えられたとおりにお答えしました。「神様、お話しください。私は聞いております」。神様はサムエルに、大切なお告げをお話しになりました。サムエルは神様のことばにしつかりと耳を傾けました。

翌日、エリはサムエルを呼び、「神様は何をお語りになったのかね」と聞きました。サムエルは、エリに神様のことばを伝えるのがつらいと思いました。それは、悪いことをしているエリの息子たちに神様が罰を与えるというお告げだったからです。それでも、「隠さないで教えておくれ」と願うエリに、サムエルは神様のさばきのことばをきちんと伝えました。エリは深くうなずいて、「神様のお考えのとおりになるように」と言いました。19～20節を読みましょう。この時からサムエルは、神様のことばを聞いて伝える預言者となつたのです。

聖書の復習・適用

- ① 神様は、聖書のことばを通して、私たちにも語りかけてくださっています。聖書のメッセージを聞くとき、聖書を読むとき、みなさんはどんな姿勢で臨んでいますか。(聞いているようで聞いていない)ということがないだろうか。暗唱聖句から、神のことばに心を向けてしっかりと聞く姿勢が大切であることを伝える)
- ② 今まで、みんなさんが神様から教えられたみことば、励まされたみことばなどを教えてください。(教師も証しする。今年もたくさんのみことばを心に蓄えるように励ます)

〈歌〉「イエスさまのことばが」(「こどもさんびか改訂版」「日本キリスト教団出版局」6番)

〈活動〉「みことばかるた」

教師の準備 今まで暗唱した聖句を二つの句に分けて、下の句をカードに書いておく。

遊び方 下の句をばらばらに置く。教師が上の句を読み、かるたの要領で生徒がカードを取る。

毎日の聖書

日曜 I サムエル3・9、月曜 ヘブル1・1～2、火曜 II テモテ3・16～17、水曜 ルカ8・15、木曜 詩篇119・105、金曜 詩篇95・7～8、土曜 ヤコブ1・21～

ワンポイント・アドバイス

★旧約聖書の時代において神は、預言者に夢や幻を見せる、直接声をおかけになるという方法でみこころを示し、民は預言者を通して神のみこころを知った。今の私たちはおののが聖書を通して神のことばを聞き、みこころを知ることを確認しよう(ヘブル1:1～2)。

★エリの家に対するさばきのことばは厳しいものであったが、サムエルは神のことばを告げ、エリはそれを受け止めた。自分にとってつらく思えるみことばも、受け止めて従う大切さを伝えたい。

① 祈りについて考えましょう。ふだん、どんな祈りをしていますか。心から切実に何かを願い、祈つたことがありますか。はつきり答えを頂くま

聖書の復習・適用

「サムエルはこの内容をエリに知らせるのを恐れましたが、エリは隠さず話すように言いました。そこでサムエルは、すべてのことをエリに話し、エリもそれを主のことばとして受け入れました。こうしてサムエルは、主のことばを伝える預言者として、イスラエルを導く者となつたのです。」

「サムエル、サムエル」と呼ばされました。サムエルはエリから教えられるとおりに「お話しください。しもべは聞いております」と言いました。

母ハンナが神を「主」、自分を「はしため」と呼んで祈つたように(1・11)、サムエルも神を「主」、自らを「しもべ」と呼んで、神のみこころを聞く者となりました。

三 神から託された使命 (3・10～21)

主がサムエルに言われたのは、聞くに堪えない衝撃的なことでした。主がエリの家を永遠にさばくというのです。それは、エリの息子たちが律法に従わないこと、不道徳の罪を続けていること、しなかつたことが原因でした。

サムエルはこの内容をエリに知らせるのを恐れましたが、エリは隠さず話すように言いました。

そこでサムエルは、すべてのことをエリに話し、エリもそれを主のことばとして受け入れました。こうしてサムエルは、主のことばを伝える預言者として、イスラエルを導く者となつたのです。

① 祈りについて考えましょう。ふだん、どんな祈りをしていますか。心から切実に何かを願い、祈つたことがありますか。はつきり答えを頂くま

られ、祭司の働きを見聞きしながら主に仕え、主人にも慈しまれて成長していきました。

ある夜、少年サムエルが神殿で寝つていると、神がサムエルを呼ばれました。サムエルは、エリが呼んだと思って走つていきましたが、エリは呼んでいないと言います。その頃イスラエルでは、神からのことばが与えられることはめったになかったので、エリは神がサムエルを呼んだとは思わなかつたのでしょう。サムエルもまだ神からのことばを聞いたことがありませんでした。サムエルは戻つて寝ました。

神はもう一度、サムエルを呼ばれました。サムエルはまたエリのところへ行きましたが、呼んでいないと言われて戻ります。主が三度めにサムエルを呼ばれた時、エリはようやく神がサムエルを呼んでおられるということを悟りました。

サムエルが戻つて寝ると、主が来て、そばに立ち、

二 サムエルへの呼びかけ (3・1～9)

サムエルは幼い頃から祭司エリに預けられて育ちました。祭司は、神と人の間をつなぐ役割を担っています。サムエルは主のみもとで、母に祈りました。そうして生まれたのがサムエルです。サムエルは母ハンナの信仰を受け継ぎました。

新しい時代は、一人の男の子、サムエルが生まれることから始まります。サムエルは、母ハンナの切実な祈りから生まれました。ハンナはなかなか子どもが与えられず、つらい思いをしていました。その気持ちは神に向かっていきました。ハンナは心を注ぎ出し、神から答えを頂くまで熱心に祈りました。

新しい時代は、一人の男の子、サムエルが生まれることから始まります。サムエルは、母ハンナの切実な祈りから生まれました。ハンナはなかなか子どもが与えられず、つらい思いをしていました。その気持ちは神に向かっていきました。ハンナは心を注ぎ出し、神から答えを頂くまで熱心に祈りました。そうして生まれたのがサムエルです。サムエルは母ハンナの信仰を受け継ぎました。

1/6《第1課》
(新年)

サムエル

I サムエル1,3章
暗唱聖句
「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(Iサムエル3・9)

目標 聖書を読んだり祈つたりするときの、神に対する向き合い方を振り返る。

導入から聖書へ——みんなは新しい年をどのように

ワンポイント・アドバイス

★主のことばを聞くにはどうしたらよいだろうか。祈りのうちに直接語られる、聖書や信仰書を読んで示される、靈的指導者の助言、状況からの示唆、クリスチャンの交わりを通して気づかされることもある。しかし、日頃からの神との関係が密でなければ、また聞く心がなければ、主の語りかけを敏感にキャッチすることはできないだろう。新年なので、ディボーションを始めるよいチャンスである。なか

なか続かなくても、日々みことばに触れるよう励ましていこう。

★神を父と呼び、親しく話すことができるのは、主イエスが仲介者となり、罪ある私たちと神との間に立ってくださつたからである(Iテモテ2:5)。このことに感謝しつつ、熱心に祈る者となりたい。

主題 神のことばを聞き、伝えた預言者。

暗唱聖句 「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(Iサムエル3・9)

目標 聖書を読んだり祈つたりするときの、神に対する向き合い方を振り返る。

導入から聖書へ——みんなは新しい年をどのように

な思いで迎えていますか。昨年は災害も多く、大きなことが自分や周りの人々に起きた人もいるかもしれませんね。暗い出来事があればなおさら、新しい年に新たな期待があるでしょう。イスラエルの民にも、新しい時代が訪れようとしていました。

サムエル

I サムエル1章、
2:18~26、3章主題
暗唱聖句
目標神のことばを聞き、伝えた預言者。
「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(I サムエル3:9)

自ら主の声を聞くとともに、幼い魂のために祈る者とされる。

「神のともしびが消される前であり」(3:3)は、口語訳では、「神のともしびはまだ消えず」となっています。燭台のともしびは日の入りとともに点火され、夜中の間ずっと輝き、日の出とともに消されました。ですから、サムエルが生まれて初めて神の聲を聴いた、この幻の時は夜明け前であつたということです。消されないで輝き続けた「神のともしび」とは、まさにここに登場してきた少年サムエルその人でした。

士師記の時代はまことに暗黒そのものでした。「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行つていた」(士師21:25)とあるとおりで、I サムエル3:1にも、「そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかつた」とあります。

1. サムエルの誕生 (1章)

サムエルの生涯は、誕生から奇しい神の恵みに

満ちていました。

父エルカナには二人の妻がありました。一人の名はハンナ(日本語に訳せば「めぐみさん」)、もう一人の名はペニンナといいました。ペニンナには子がいましたが、ハンナには子がいませんでした。年に一度、シロにある主の家に礼拝のために上るたびに、ペニンナからの嫌がらせもあり、つらい思いをしていました。

ある年、ハンナは食事の後、立ち上がり、心の痛みを主の前にもち出し、激しく泣いて主に祈りました。「男の子を下さるなら、私はその子を一生の間、主にお渡します」(11節)と。

この心を注ぎ出したハンナの祈りは主の心に留まり、ついに念願の男の子が与えられました。彼女は、「私がこの子を主にお願いしたのだから」(20節)と言つて、サムエル(「神が聞かれた」を意味する)と名づけました。

2. 主の前に仕えるサムエル (2:18~26)

「サムエルは、亞麻布のエポデを身にまとった幼いしもべとして、主の前に仕えていた」(18節)。主人の家では、老齢のエリと、その息子たちが主に仕えていました。といっても、「エリの息子たちはよこしまな者たちで、主を知らなかつた」(12節)とあります。ささげものについても罪を犯し、また、「天幕の入り口で仕えている女たちと寝ている」(22節)など、信じがたいことが記されています。

ここで、母ハンナの信仰を考えてみます。

ハンナは、「この子を主におゆだねいたします。この子は一生涯、主にゆだねられたものです」(1:28)と、祭司エリに語りました。主の家のありさまがこれほどひどい状態であったにもかかわらず、ハンナは、主の前の約束を果たしたのです。「そんなひどいところだつたら、私自身のもとに置いて育てます」とは言いませんでした。そしてサムエルは、「祭司エリのもとで主に仕えていた」(11節)のです。主の前に罪を犯し続けていたエリの息子たちとは対照的に、サムエルは主の前に仕え、「主にも人にもいつもひどい状態であったにもかかわらず、ハンナは、

サムエルを呼ばれました。彼は、「はい、ここにおります」と言つて、エリのもとに走つていきましたが、エリは、「呼んでいない。帰つて、寝なさい」—この繰り返しが三度もありました。一見、ユーモラスな光景でもありますが、老祭司エリは三度めで初めて、「主が少年を呼んでおられるということを悟つた」(8節)でした。

エリの靈的感覺が鈍くなつていたこと、それと同時に、少年サムエルの純粋な神のしもべとしての姿、また、神の御声に耳を傾けようとする初々しさを覚えます。そのため、エリはサムエルに告げました。「主がおまえを呼ばれたら、『主よ、お話しください。しもべは聞いております』と言ひなさい」(9節)と。

それでサムエルは行つて、自分のところで寝ました。すると主が来て、そばに立ち、「サムエル、サムエル」と呼ばれました。サムエルはエリに教えられたとおり、「お話しください。しもべは聞いております」(10節)と言うと、主はエリの家についての恐るべき永遠のさばきについて語られたのです。その主のことばは、サムエルを通してエリにすべて語られました。このようにして、主の預言者サムエルは立てられていつたのです。

3. 主の声を聞くサムエル (3章)

「サムエル、サムエル」。そのようなある日、主は

(小野淳子)

学びを深めるために

- ★新年は、イスラエルが王国という新しい転換期に入していく時代から学んでいきましょう。
- ★サムエルのように、祈られて生まれてくる子の幸いを覚えます。同時に、幼い魂の導きと救いのために、教会学校や、子どもへの働きのために祈り労したいものです。
- ★サムエルはどのような時代背景、また家庭環境に誕生しましたか。母のハンナはどんな女性だったですか。